伊藤先生の

街かど診療室 Q&A

眼の外傷について

夏本番で草木が勢いよく伸びてくると、手入れをしなくてはならない状況になります。

庭や鉢植えなどの手入れをした際に多い眼の外傷はというと……。

①木の枝や草で眼をついてしまった。これは黒目(角膜)や白目(結膜)に傷がついてしまい、ゴロゴロする程度から、痛くて眼が開けられない程度まであります。草木には真菌等がついていることが多く、傷の治合もあります。重篤な場合は、手術しても失明してしまうこともありますので、近くの眼科で診てもらいましょう。

②草木を支える棒で眼をついてしまった。この場合、木屑等が白目に刺さっている場合もあるので、必ず近くの眼科で診てもらいましょう。

③草刈り機を使用した際に、何かが飛んできて眼に入った。この場合、片が眼に刺さったり中に入っていたりする場合があります。石自体が眼の中に入っている場合は、手術しても失明してしまうこともありますので、近くの眼科で診てもらいましょう。

このような機器を試用する場合も含めて、草木をいじる場合は保護眼鏡を推奨します。

「縄文時代の遮光式土偶の目は木の実などを採取する際に草木から目を守るためのゴーグルである」と唱えている眼科医もいるほど、眼科的には多い外傷のお話でした。

伊藤 勇
保谷伊藤眼科院長
大学病院で最先端の眼科医療に携わってきた眼科専門医。地域の医院との連携を積極的に図っている。

☎042-439-8123
西東京市北町 1-6-1
レッツビルディング 3F
http://www.itoganka.com/
■科目：網膜硝子体疾患手術、緑内障手術
白内障手術、眼科一般診療
■時間：水・土曜午後、日曜、祝日は休診
※緊急手術は随時対応　※月・金曜午後は予約優先

	月	火	水	木	金	土	日
9:30～12:30	○	○	○	手術	○	○	／
14:00～17:00	検査・診察	手術	／	手術	検査・診察	／	／